

やりたい放題のJR東労組の 横暴で職場は荒廃！

国鉄末期に、行き過ぎた組合活動が職場荒廃を招いた反省から、JR各社は、職場規律の厳正化に努めてきたはずでした。しかしJR東日本では、JR東労組が青年部を煽動し、若手が平気で先輩を恫喝して、管理職にも悪態をつく事件も発生するなど、職場秩序は荒れ放題でした。

1. 会社の「ミーティングルーム」をJR東労組が占拠

浦和電車区でも、事件当時、会社の「小集団活動」用の部屋である「ミーティングルーム」をJR東労組浦和電車区分会が占拠し、事実上の「分会事務所」として使用していました。これは労働協約違反であるうえ、特定組合にのみ便宜を図る「不当労働行為」に他なりません。

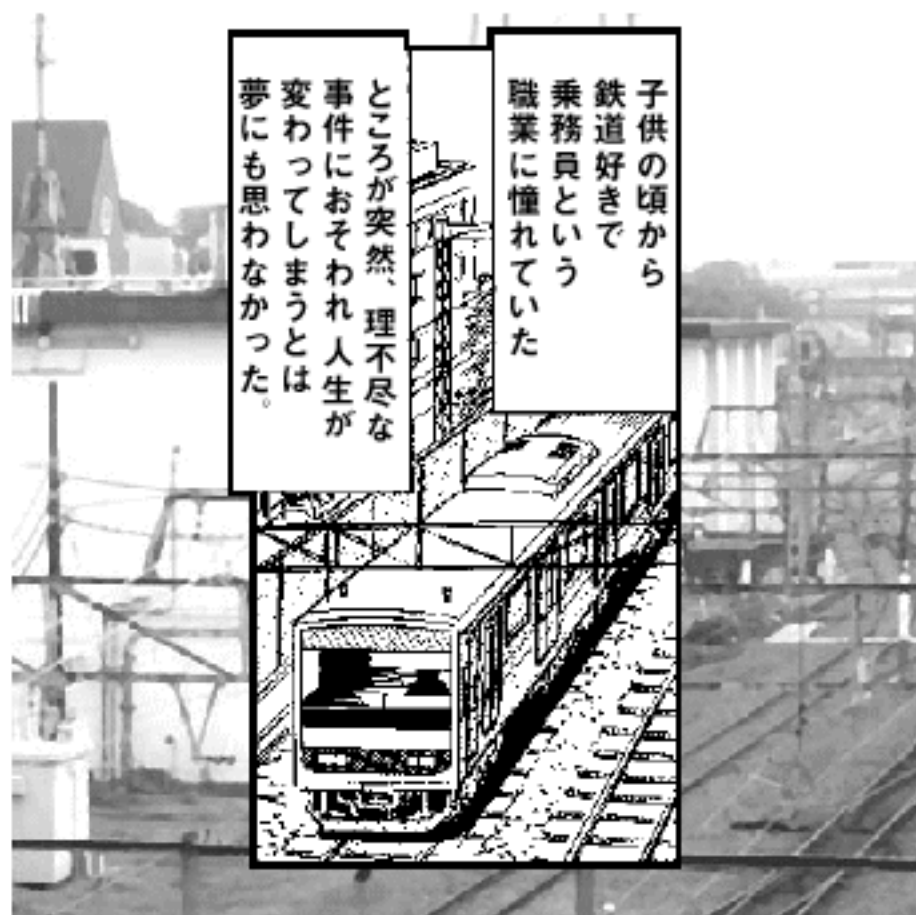
「ミーティングルーム」の書棚やロッカーは、小集団活動に関する書籍やビデオなどもありましたが、大半は、組合の書籍、書類、ピラ、フロップディスクなどで占拠され、壁にはピラや分会役員の勤務表などが貼られていたほか、ホワイトボードは組合の行事予定表と化していました。室内には電話、パソコン、ワープロ、コピー機、冷蔵庫が配備されており、分会役員らが使用していました。「常駐体制」と

称して、役員が寝泊りすることもあったということです。

1999年4月～5月、JR東日本東京支社運輸車両部は、24項目の職場管理上の不適切な事象を指摘する文書を作成しました。この中で、「特に重点的な取り組みが必要と思われる以下の職場」として、松戸車掌区、池袋運転区、浦和電車区が挙げられています。会社は事件の1年以上前から職場荒廃の実態を把握していたことがわかります。

2. JR東日本総合研修センターは 荒れ放題で死亡事故も！

2000年9月4日、FNNニュース（フジテレビ）は、福島県白河市にあるJR東日本総合研修センターのひどい荒廃ぶりを報道しま



した。これによると、社員による壁や天井などの施設破壊が4ヶ月間で22件にも上るほか、TシャツやGパンといった私服での研修参加、浴場での排便など、およそ「研修の場」として相応しくない、社会常識から逸脱した行為が横行しているということです。さらに2001年8月9日には、研修生の飲酒による転落死亡事故まで発生し、警察が駆けつけた際、研修生50〜60名が押し掛け、「何しに来た!」「帰れ!」などと騒いで事情聴取もできなかったそうです。

この事態を重く見て、JR連合加盟の東日本鉄産労、JRグリーンユニオン（いずれも当時）が直ちに会社に申し入れましたが、これに対し、JR東労組は、機関紙（「緑の風」（10月1日）で「9月4日のフジテレビ放映は、JR連合と国労が共闘会議を開催し、ニュースをいかに活用するかを策した結果である」「フジテレビを使ったデキレースだ」と述べ、反省するどころか、開き直ってJR連合を攻撃する始末でした。

この当時、JR東労組の職場支配は頂点に達し、会社の管理権は奪われ、職場荒廃はひどくなる一方でした。「浦和電車区事件」が起ったのも必然であるといえます。



JR東日本総合研修センターの荒廃ぶりを報じる
FNNニュース（2000年9月4日）

3. JR東労組が引き起こした 異常な事件の数々

先に説明した「積極攻撃型組織防衛論」「平和共存否定」といった異常な組織の論理や方針に基づき、JR東労組では、「浦和電車区事件」以外にも、組織に批判的な組合員や他労組の組合員を多数で吊り上げるといった事件が多数発生してきました。

1996年8月 高崎車掌区事件

同区で、JR東労組を脱退し国労に加入した若手組合員3名が、勤務中にJR東労組組合員多数に取り囲まれて罵声を浴びせられ、仕事を妨害されました。乗務員宿泊所でも追及を受け、一睡もできずに乗務に就くという事態も発生しました。3名はJR東労組に拉致・監禁されて追及を受け、結局、国労を脱退させられ、JR東労組に復帰しました。

1999年6月 上野車掌区「JR連合万歳」事件

同区の若手組合員がピアガーデンでJR東労組への愚痴をこぼし、「JR連合万歳」と言ったことで、分会役員から「組織破壊活動」であるとして、連日の「事情聴取」を受けて長期休暇に追い込まれました。結局、当該組合員は出向発令を受けました。

1999年7月 品川車掌区掲示物破壊損事件

JR東労組の同区分会青年部長が東日本鉄産労（JR連合加盟、現・JR東日本ユニオン）の分会掲示物を剥がして分会長に投げつけるといふ事件が発生しました。東日本鉄産労は民事提訴し、損害賠償を命じる判決が下されています。

1999年8月 松戸車掌区 (常磐線) 食堂占拠事件

JR東労組の同区分会の若手組合員2名がJR連合ユースラリーに参加したことで、この組合員に徹底した「事情聴取」が行われたほか、組織引き締めのために、「団結うどんづくり」と称して社員食堂を分会が長期間占拠し、他労組の使用を排除するという異常な事件が発生しました。

1999年8月 武蔵小金井電車区 (中央線) 事件

同区は、JR東労組の「平和共存否定」の運動が徹底されている職場でした。東日本鉄産労の分会長を、JR東労組の分会青年部が多数で取り囲み、職場で脅迫まがいの追及行動を行っていたのを区長が見咎め注意したところ、反対に「こんないい加減な区長のもとで働けるか!」と機関紙で攻撃するという事件が発生しました。20代の青年部役員らが、平気で先輩社員をつかまえて追及し、区長に悪態をつくという異常な職場実態が現実にあったのです。

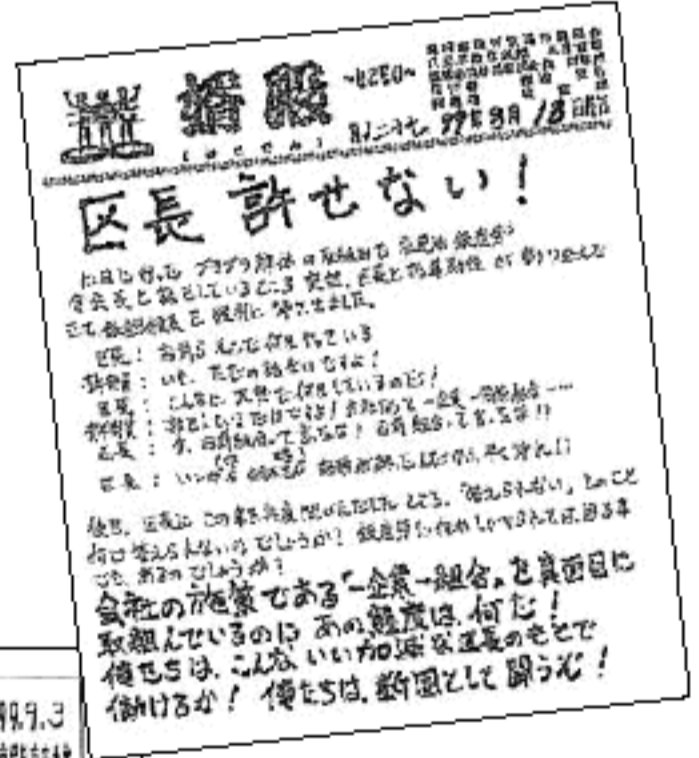
1999年8月 松戸駅 (常磐線) 事務室乱入事件

松戸駅で改札業務中のJRグリーンユニオン (JR連合加盟、現・JR東日本ユニオン) 組合員に対し、JR東労組の若手組合員と付き合ったことを理由に、他職場のJR東労組組合員約30名が押し掛け、事務室内まで乱入して集団で追及行動を行うという事件が発生しました。事務室では現金を取り扱っていましたが、管理者は彼らを制止もしませんでした。会社は、後日、この被害者を出向させて事態を収めました。

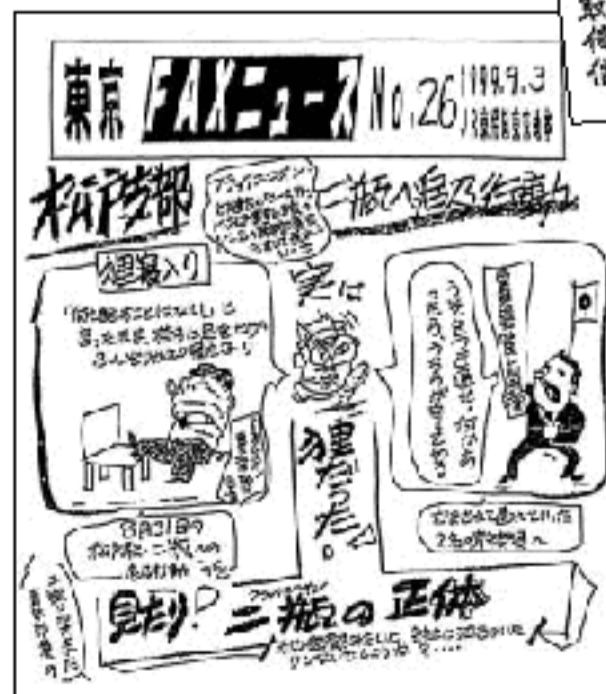
1999年10月 金町駅 (常磐線) 暴力事件

JR東労組組合員が、組合の脱退問題で激昂し、東日本鉄産労の分

職場での追及行動を注意され区長に食って掛かるJR東労組の武蔵小金井電車区分会の青年部ニュース。



金町駅の暴力事件に対する東日本鉄産労 (JR連合) の抗議に対し、JR東労組は「今まで以上に組織が強化・拡大されました」とニュースに非常識な「感謝状」を掲載した。



「松戸支部追及行動」を報じる東京地本の下品で低俗なニュース。

5. JR東労組の暴力的体質は今も変わらず！

JR東労組の内部対立もあり、その後も、暴力事件は繰り返されています。2003年5月10日から13日に開催されたJR東労組運輸車両部会常任委員会では、同部会の役員を務めていた長野地本所属の運転士が、組織破壊行為を行ったとの理由で、3泊4日の間、JR東労組役員から集団で恫喝、脅迫され、頭から水を掛けられるなどの暴行も受けて、精神的病理に陥るといふ事件が発生しました。このほかにも、2005年4月24日深夜、新潟県長岡市で、JR東労組組合員である新潟支社の運転士4人が、JR東労組に所属する勤務中の高崎支社の車掌3人に暴行し、肋骨を折るなどの被害を与えるといふ事件も発生しています。これも、背後にJR東労組内部の対立があったとみられています。

浦和電車区事件の刑事事件化によって、JR東日本がようやく職場規律の厳正化に乗り出し、JR東労組の横暴は沈静化の傾向にありますが、気に入らない者を恫喝し、暴力で追及するといふ組織体質は、今も何ら変わっていないのです。人命を預かる鉄道会社に、このような体質を持った組織が存在することを許してよいはずはありません。

